

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0891600140		
法人名	医療法人社団栄進会		
事業所名	グループホーム いきいきの家笠間(愛宕ユニット)		
所在地	茨城県笠間市笠間4386-1		
自己評価作成日	2020年10月9日	評価結果市町村受理日	2021年2月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0891600140-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0891600140-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県水戸市酒門町4637-2		
訪問調査日	2020年12月11日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

笠間駅から近く、コンビニや病院、薬局等が隣接されているため立地が良い。施設の中庭にシンボルツリーのしだれ桜が植えてあり、施設内からでもお花見を楽しむことができる。今年ではコロナウイルス対策のため、外出行事は行っていないが、施設の中で楽しめる行事を多々行っている。入居者様の状態により、関連施設への受け入れ支援も行える。グループホームでも、訪問系サービスを利用することで看取りも可能です。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

笠間駅から徒歩数分という利便性の高い場所にある事業所である。周辺にはコンビニ、整形外科や薬局、公園があり、日常の散歩コースにもなっている。平成29年開設以来、地域との交流を積極的に行い、地域密着型事業所としての役割を果たしていたが、現在、コロナ禍により地域交流の幅が狭くなった。ホーム内でのレクリエーションやイベントに工夫を凝らし、コロナ禍でも活気を失わないよう努力をしている。思いを訴えることが困難な利用者の思いもくみ取り、できる限りみんなの要望に応じて、その人らしい生活を支援できるように意識している。看取りの経験をした。事前に看取りに関する研修会に参加し、知識を習得することで不安はなかった。訪問診療との契約や家族と協力しあうことができた。どこまで、何ができるか心配だったが、申し送りの徹底でその心配は払拭され、自信に繋がったという。  
\*新型コロナウイルス感染予防の観点から、訪問調査は通常より時間を短縮し、簡潔に実施。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の「いつまでも自分らしくいられる生活」に加え、事業所として「笑顔あふれる介護」を目標にかかげ、毎日職員の目にする箇所に掲示し、目標に対しての評価を半年に一回行っています。	ユニットによって利用者の状態が異なり、軽度者のユニットには笑い声が響く。意欲低下が見られる方が多いユニットでは、レクリエーションなどで笑顔を引き出すのは難しい。職員はホームの理念を基に実践できそうな目標を決めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス感染対策の為、全面的に来訪を制限していましたので、今年はあまり交流がもてていない現状です。	コロナ禍前は町内の行事に参加でき、喜ぶ利用者の姿があった。緊急事態宣言が出された初めの頃は様々な制限にストレスを感じている様子であった為、普段のレクやイベントを多めに行い、発散させていた。最近では利用者も状況を把握し、納得している。町内会の集まりに管理者が出席し、ホームの紹介をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会の総会等に参加させていただき、グループホームの特徴や認知症についてのお話をさせていただいています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回開催しており、行政職員、区長様、居宅ケアマネジャー、ご家族等に出席していただき、意見交換を行っている。	感染拡大がピークの時期は、2回、書面での対応。家族は感染の可能性を心配し、欠席される方が多かった。玄関に議事録あり、いつでも閲覧可能。利用状況や事故報告、ヒヤリハットが記入しやすいよう、明確化を提案している。議事録は全職員が確認している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営についての相談等を随時行っている。社会福祉協議会の協同事業の委員としても参加しています。	社会福祉協議会との連携事業として、事業者向けの研修や、一般の人の施設見学会などに協力している。研修内容の希望を聞くなどしていたが、コロナ禍にあり今年には行っていない。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月、身体拘束についての委員会を開催し、話し合いを行っている。玄関は夜間以外は解錠しています。	委員会は、その日出勤の職員で毎月開催。拘束者の現状と今後の方向性を話し合う。安全ベルト、4点柵、ミトンなどがあり、安全ベルトを外す時間を徐々に増やしている。転倒の事故が相次いで起こったために使用したが、今はみんなで話し合いながら拘束解除に向けて取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修を通し、防止に努めている。コロナウイルス感染症が落ち着けば、再度外部研修にも参加していきたい。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コロナウイルス感染対策が落ち着けば、外部研修に参加したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書にそって、ご家族に説明しています。定めのない事項においては、都度話し合いの場を設けて対応しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設の玄関にご意見箱を設置。その他、面会時や電話、メール等にてご意見を聞かせていただいています。	ホームで最期を迎えたい、最後までホームにおいてほしいとの要望があり、看取り体制を整えた。家族とは、メールでのやり取りも行っている。その他、ホームページ、ブログ、インスタグラムを開設し、意見の収集等に活用できればと思っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや個別面談にて、意見を聞かせてもらう機会を作っている。	2ヶ月に1回、出勤職員が多い日を選んでミーティングを開催。参加できない職員からは、事前に意見を聞いている。職員は介護技術のレベル評価の面談があり、ランク付けされる。ランクにより手当が支給される。資格なしでもランクアップで手当があるので、やりがいに繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	1年に1回給与の見直しを行い、有給休暇や特別休暇においては、遠慮なく消化できる環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修においては、コロナウイルス感染症対策の為、現在は控えています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウイルス感染症対策の為、他事業所との交流は以前より減ったが、随時電話等にてやりとりをさせていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	個人個人の訴えや要望を聞き、可能なかぎり希望を叶える取り組みをしている。コミュニケーションをとる時間を多く設け、信頼関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	いつでも遠慮なく、訪問や電話、メールにて対応しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族状況や本人の状態により、グループホーム以外の関連施設の紹介を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事の一部を入居者様と一緒にいき、役割を持って生活していただけるよう支援しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様からご家族様になにか要望があった際は、速やかに連絡をとりお話しさせていただきます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様の許可があれば、友人や馴染みの方の面会や外出も可能としています。手紙のやりとりの支援も行っています。	電話の取次ぎ支援をしている。ハガキを自分で購入される方がおり、郵便局まで出しに行くことがある。年賀状レクも職員の提案で企画中。以前は美容院に行くこともあったが、今は自粛している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々のレクリエーションや行事により、交流を図っている。他ユニットの方とも、自由に交流できるような体制をとっていたが、今年はコロナウイルス感染症対策の為、ユニットを移動しての交流は控えています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も問い合わせや相談があれば、随時相談支援を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、希望や要望を聞かせていただき、どうしたら実現可能かを職員一丸となって検討している。	自ら要望を伝える利用者が多く、食べ物に関する要望が多い。利用者は職員に「饅頭買ってきて」「焼き芋食べたい」と声をかけることがあり、希望に添えるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族様に聞き取りをし、少しでも馴染みの生活に近づけるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録やミーティング、ケアカンファレンスを通し現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議を通し、ケアの見直しや新たなニーズの把握に努めています。	アセスメントはケアマネが行い、モニタリングシートはケアマネと職員で記入する。更新時と状態変化があった時にカンファレンスを行い再検討する。経過記録は時系列に、夜間は赤字と色分けしている。プラン更新は6ヶ月毎、また状況に応じて随時行う。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録や業務日誌をもとに、情報共有をしています。その他、医療情報専用の記録を作成し情報をまとめている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状態に応じて、ご家族様や関連施設と連携し、必要なサービスの見直しを行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の行事に参加していたが、コロナウイルス感染症対策の為、今年は参加を控え、またボランティア受け入れも全面的に禁止しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今まで利用していた医療機関に通院していたいています。状態により、病院の変更等の相談や調整を行っています。	訪問診療、訪問看護は希望者のみ。かかりつけ医受診は家族対応が基本であるが、管理者が付き添ったり手伝うこともある。医療記録は別綴りになっている。家族への連絡は、その都度ではなく、変わったことがあった時だけでいいと言われることが多い。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度、関連施設の看護師に来所していただき、医療に関する相談・助言をしていただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報提供や訪問により入退院の相談を行っている。また、退院後の生活の場として入居の受け入れもしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り介護の指針を説明させていただいています。家族の希望を確認し、関連施設の紹介や訪問系サービスによる施設での看取りのお話をさせていただいています。	緊急搬送が続いたり、看取りも経験した。看取りは「怖い」「どうしたらよいかわからない」との訴えが職員からあったが良い経験になった。家族と密に連絡を取りながら看取ることができた。家族も涙を流して喜んでくれ、職員にも達成感があった。系列の老健と連携がとれるので、看取りの為に老健に移る方もいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	カンファレンスや委員会を通し、急変時の対応を把握してもらっています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の消防訓練の実施。 夜間想定の実施も実施済みです。	火災想定での訓練を行った。消防署の指摘は特になかった。市からの要請で、水害時の避難訓練計画を策定した。ホームでの備蓄は水のみ、その他食料などは老健で管理していて、共同で使用する。物品は倉庫に入っている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎月、接遇委員会を開催し、入居者様やご家族様に対する対応の見直しを行っている。	接遇委員会があり、利用者や家族への接し方、言葉使い、態度の研修を行う。職員の言葉一つで、家族や利用者トラブルになることもあるので、注意を払っている。たばこの臭いについても問題提起されている。議事録作成し、職員で共有する。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なかなか状態的に困難な方でも、どうしたら希望を叶えられるのかを考え検討をしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設のスケジュールにとらわれることなく、個人のペースを大事にしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪に関しては、訪問美容室を利用させていただいています。その他、メイクやネイルも職員により対応しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	主に業者を利用しているが、入居者様の希望を聞き、食事レクリエーションを随時行っています。	今年は畑の作物が豊作で、利用者は一年を通して収穫と食べる事を楽しめた。おやつにホットケーキ、ホールケーキ、クッキーなど作った。食レクでカレーやハンバーグを作る。スパゲッティも人気である。イベントでお寿司、弁当にすることもあり。年越しそば、おせち、クリスマスはチラシ寿司の希望があり企画中。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状態にあわせ、常食、キザミ食、ムース食を提供しています。毎日、食事量や水分量の記録をつけ、医療関係者と情報の共有を図っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実施。 ブラシでのケアが困難な場合は、口腔スポンジや口腔ティッシュなどを使用して対応しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁による長期汚染を防ぐ為、こまめに排泄表を確認し誘導を行っている。 なかなかトイレの訴えが困難な方でも、オムツ対応にせず、可能なかぎりトイレでの排泄ができるよう支援しています。	1つのユニットではオムツの使用はない。夜間はその人に合わせてオムツ、声掛け、ポータブルトイレ使用と様々。ポータブルトイレは抵抗なく使っている。ドア付近にトイレがあり安心できる。トイレが狭いので、体格が良く2人介助が必要な利用者のトイレでの排泄が困難になることが悩みである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	軽い運動を取り入れたり、医師と相談し内服薬の調整を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	最低、週2回の入浴の実施。 予定日の他にも、状況により入浴できる環境を整えています。	ゆず湯などの季節の湯を楽しんでいる。お風呂が好きで「私、次はいつ？」と聞いてくる利用者もいる。シャワー浴だけの方、入浴の順番にこだわる方がいたり、拒否者は入ると言ったタイミングに入浴するなど、臨機応変に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠くなるまで、テレビを見たり仲の良い方とお話しをしたりと、自由に過ごしていただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常勤職員を中心に、薬の効果や副作用等について把握し、状態観察を行っています。薬剤師からも服薬指導をしていただき理解を深めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家庭内での役割を、施設でも行える環境を整えています。 嗜好品においては、希望があれば買い物の支援を行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年はコロナウイルス感染症対策の為、外出はしていないが、施設の中庭や庭園の散歩等で外に出る機会を作っています。	感染対策として、ドライブは車中から外を眺める。誰もいない時には公園でおやつを食べた。隣の公園までは、リハビリをかねて散歩をする。ドライブスルーでコーヒーを買うこともある。以前は買い物と一緒に出かけたが、今は利用者の方がコロナが怖いと出たがらない。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には施設で立て替えて対応をしています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所内の電話を利用していたり、手紙のやり取りの支援も自由に行ってもらっています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明は明るさを変更できるので、過ごしやすい明るさで調整しています。 月ごとに施設内の掲示物を変え、季節感を感じれる工夫をしています。	月ごとに掲示物を変えたり、利用者の作品を飾る。月の催しに関連する作品を作って掲示するようにしている。作品は職員が手を加えずに、できるだけそのままの物を飾っている。洗濯物は中庭で利用者が干したり、畳スペースでたたんだりする。食後「洗濯物取りこもう」と利用者から声かけられる。時節柄、クリスマスツリーが飾ってあった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	全部屋個室となっており、一人の時間を思い思いに過ごしていただけます。 ホールにはソファを用意し、仲の良い方とテレビをみたりしながら過ごせます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	火の元になるものはご遠慮していますが、その他は自由に家具等を持ち込んでいただいています。	使い慣れた家具を持ち込み、季節ごとに飾り付けをしている。居室の表札は個別に特徴あるものになっている。クローゼット内に棚が備えられ、ベッドは本人持ちこみ。それぞれの名前をデザインした壁飾りが飾られている。仏壇を持参した方にはお供えの支援を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床は滑りずらい素材で、段差もなく安全に歩行できる環境です。 自分で行えることは行っていただき、残存機能をいかして生活していただけるよう支援しています。		

(別紙4(2))

事業所名: グループホームいきいきの家笠間

## 目標達成計画

作成日: 2021年2月4日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		コロナウイルス感染症対策の為、外出の機会がなく入居者様の楽しみが減っている。	当面今の状況が続くと予想される為、内部での行事を充実させ、満足度を高めていく。	内部行事の開催数を増やす。 施設の庭や近所の公園等の近い場所での散歩などで、外に出る機会を増やしていく。	1ヶ月
2		介護記録、医療記録の整理を継続。	前回の外部評価でのアドバイスをもとに、記録を2種類に分け記入している。 うまく生活記録と医療記録として機能している為、継続して記録の整理をしていく。	毎月、内容が適切に記入されているか確認し、記録の整理を行う。	1ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。